

報道関係各位殿

日本国籍取得を目指すフィリピン残留2世が初来日 東京・日本財団で集団帰国会見 “肉親の名乗り出を期待！”

8月3日(火)18:00~19:00 場所:日本財団ビル2階(港区赤坂)

日本財団は4年前から、(特)フィリピン日系人リーガルサポートセンター(PNLSC)と共同で、「日本人の父」の身元が分からず日本国籍を取得できないフィリピン残留2世の「就籍」による国籍回復事業に取り組んでいます。就籍は裁判所の許可を得て新たに戸籍を作り国籍を取得する手続きで、これまでに128人が東京家裁に申し立てを行い、56人に許可、1人に却下の審判が出ています。

この度、東京家裁での調査官面接と親族探しを目的に、フィリピンから残留2世9人＝別添資料参照＝が初来日し、下記の通り日本財団ビルで“帰国会見”を行います。うち2人については、その後の調査で父親がそれぞれ京都、広島出身と分かっています。残る7人のうち4人の父親は、大阪、神戸、熊本、沖縄出身と見られるものの決め手はなく、会見では戦中・戦後の体験や現在の生活状況、日本への思いなどをお話する予定です。

肉親探しを進めるためにも、取材いただければ幸いです。取材いただける場合は、別紙に必要事項を記入の上、返信いただきますよう、お願い申し上げます。

記

【記者会見】

日時:8月3日(火)18時~19時

場所:日本財団ビル2階会議室(港区赤坂1-2-2)

以上

内容の詳細、及び日本滞在中の一連のスケジュールにつきましては、別紙をご参照ください。

《問い合わせ》

特定非営利活動法人フィリピン日系人リーガルサポートセンター(PNLSC) TEL: 03-3355-8861

日本財団国際協カグループ新規分野開拓チーム 梅村 TEL: 03-6229-5181

《このリリースに関するお問い合わせ》

日本財団 情報グループ 広報チーム 小澤直、富永夏子、本山勝寛、宇田川貴康

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル

TEL:03-6229-5131/FAX:03-6229-5130 E-mail:pr@ps.nippon-foundation.or.jp

URL:http://www.nippon-foundation.or.jp/

日本財団は、ポートルースの売上を財源に公益活動を推進しています。

日本財団・PNLSC 共同事業

フィリピン残留日本人2世の国籍回復支援

～日本人としてのアイデンティティーを取り戻すために～

1. 事業概要

身元未判明のフィリピン残留日本人2世を対象に、国籍回復支援(身元調査、証拠書類収集、就籍申立)及び家庭裁判所における調査官面接のための集団一時帰国を支援する。

(就籍とは、潜在的に日本国籍を有しながら戸籍に記載されない人が、家庭裁判所の許可を得て新たに戸籍を作成することを言う。なお、中国残留孤児はこの方法で約1300人が日本国籍を取得している。)

2. 事業背景

19世紀末頃から太平洋戦争終結までの間、約3万人の日本人がフィリピンへ移住、その多くは現地でフィリピン人女性と結婚し、平穏で豊かな生活を営んでいた。しかし、戦争により父親を亡くしたり、敗戦後日本へ強制送還されたりするなどして家族が崩壊、多くの妻やその子供(フィリピン残留日本人2世)が現地にとり残された。さらに戦後は反日感情による差別がひどく、出生証明書などを破棄して日本人であることを隠し、極貧の中、戦後を生き延びてきた。

こうした中、本事業では戦中戦後の混乱で身元を証明する書類が限られているフィリピン残留日本人2世の日本人としてのアイデンティティを回復するため、家庭裁判所への就籍申立による支援を2006年に開始。その結果、これまで56名の国籍回復、さらに194名の身元を判明させることができた。しかしながら、出自が判明できない残留日本人は、現在就籍申立中の件を含め、未だ300名程度存在する。その多くは、父が日本人だと証明する証拠書類がほとんどないため、就籍による救済が困難な状況にある。さらに高齢により死亡する方も増えていることから、今後、中国残留孤児と同様に「孤児名簿」を作成し、日比両国政府の公認を得て、就籍申立ての証拠として裁判所に提出することが急務である。

4. 助成実績

助成先:(特)フィリピン日系人リーガルサポートセンター(PNLSC)

助成金額: **累計 189,596,000 円**

(2006年度:44,300,000円、2007年度:54,900,000円、2008年度:46,217,000円、2009年度:44,179,000円)

5. 就籍状況(2010年7月21日時点)

申立数 : 128名

就籍決定数 : 56名

身元判明者数: 194名

2010年集団帰国日程

日時	行程	会場	備考
8月3日(火) 7:40 ↓ 13:10 18:00～	マニラ空港発 【デルタ航空 172 便】 成田空港着 (ターミナル1) 記者会見 ホテルチェックイン	日本財団 三井ガーデンホテル	フィリピン残留日本人写真展 @日本財団1階ロビー (8月3～6日)
8月4日(水) AM 13:00～	(調査官面接練習) 調査官面接	東京家庭裁判所	
8月5日(木) 10:00～ PM	調査官面接	東京家庭裁判所	
8月6日(金) 17:00 ↓ 19:00	上智大学グローバル・コンサーン研究所主催講演会 開催 場所: 上智大学中央図書館9階921 講演会内容: 17:00-17:50 『無国籍と私』 陳天璽 (国立民族学博物館准教授) 18:00-18:20 『残留日本人問題: 日本人移民の歴史から国籍回復運動』 (PNLSC) 18:20-19:00 フィリピン残留日本人の方々を含めた質疑応答		
8月7日(土) AM 14:00 ↓ 17:00	フィリピン残留日本人2世帰国集会 場所: 四ツ谷主婦会館9階スズランの間 内容: 14:00-14:10 フィリピン残留日本人2世帰国者の紹介 14:15-15:00 『残留問題の背景とフィリピン日系人のいま』 大野俊 (京都大学東南アジア研究所特任教授) 15:15-17:00 フィリピン残留日本人2世との交流会		
8月8日(日)	都内観光	東京都内	
8月9日(月) 10:00～ 11:00～ 18:40 ↓ 22:10	外務省南東アジア2課訪問 厚生労働省調査室訪問 成田空港発【デルタ航空173】 ターミナル1 マニラ空港着	外務省 厚生労働省	

帰国者	①父の氏名 ②就籍申立日 ③カテゴリー*	父の出身	性別	年齢	出生年月日	背景(陳述書の要約)
1  イラ ヨランダ	①イラ トソ ②平成20年9月18日 ③C	神戸	F	65	1945年5月5日	父はミンダナオ島サンボアンガ州バリワサンで「ダイマル」という漁船のキャプテンをしていたイラ トソ。生前の母の話では父は神戸出身。父は1944年5月31日にフィリピン人女性ベニータ マクロホンと市民婚。両親の婚姻証書には父「Ira Toso Japanese 34 Years old」、父の両親の名は母「Yoh Ira Japanese」、父「Shiro Ira Japanese」とある。戦前に父は消息不明となり、父の顔を見ず本人は育った。母は中国人と再婚し、本人は継父を本当の父だと思っていた。しかし、高校生の頃母から父が日本人であると知り、自身のアイデンティティーについて考えるようになった。本人は、上記両親の婚姻証書の他に両親の婚姻に関する宣誓供述書などがある。
	付き添い	帰国者の現住所			ダバオ市	
2  カスミ マリア フェ	①カスミ ジュンイチ ②平成22年3月3日 ③C	沖縄	F	67	1942年10月27日	父はパナイ島カピスでろうそくや薬用油の行商をしていたカスミ ジュンイチ。生前の母の話では父は沖縄出身。1941年12月にフィリピン人女性アグスティナ アルバレスとアイタ族の方式により結婚。戦争が始まると、父は軍人となり、1945年の戦闘で行方不明となった。戦後、日本人の家族として敵対視され、地元を離れ親子でミンダナオ島の親戚に身を寄せた。本人は学校に行くことができず、家事手伝いをした。本人は、遅延登録による出生証明書、教会発行の両親婚姻証明書、両親婚姻に関する宣誓供述書などを所持している。
	付き添い	帰国者の現住所			南コタバト州ジェネラルサントス市	
3  コダマ ヘルミア	①コダマ ケンイチ/ケンイチ ②平成22年7月21日 ③C	不明	F	68	1942年8月9日	父はミンダナオ島カガヤンデオロでいくつものパザールを経営していたコダマ ケンイチもしくはケンイチ。1941年1月10日、フィリピン人女性アシンダ マカバタスとムスリム族の方式により結婚。両親は地元の言葉(チャバカノ語やビサヤ語)で会話をしていた。戦中、父は日本兵になったとの話を聞くが実際は不明。人づてに「子どもが女の子だったら看護婦に、男の子だったら軍人に」と言い残し、消息が不明になる。父の顔を見ることなく、本人は育ったが、日本人の子だということは周囲にも知られており、戦後辛い目に遭ってきた。本人は、両親婚姻に関する宣誓供述書、本人の出生証明書(遅延登録)、本人の出生および両親に関する供述書などを所持している。
	付き添い	帰国者の現住所			ミサミスオリエンタル州バリンガサグ町	
4  小林 ロレン (日本名:マサエ)	①コバヤシ(以下不明) ②平成19年7月3日 ③C	熊本	F	83	1927年2月20日	父はミンダナオ島のピンダサンでアバカ栽培に従事していたコバヤシ(以下不明)。本人は生前の母から父は熊本出身だと聞いた。1925年にフィリピン人女性アシンダ マカバタスとムスリム族の方式により結婚。両親は地元の言葉(チャバカノ語やビサヤ語)で会話をしていた。戦中、父は米軍の爆撃に遭い死亡。日本人の知り合いとして、オカヤマさん、シンガワさん、オコボ(オコボ?)さん、ヒラノさん、コハラさんがいる。本人は、イスラム教徒情報室発行の両親の婚姻証、本人のイスラム教徒としての洗礼証明書などを所持している。
	付き添い	帰国者の現住所			コンポステラバレー州マビニ町	
5  サカモト ハシント (日本名:ケンチャン)	①サカモト ノリオ ②平成22年7月7日 ③C	大阪	M	70	1940年1月30日	父はルソン島ブラカン州のビール会社に勤めていたサカモト ノリオ。1939年5月13日にフィリピン人女性チュオドラ トンコと結婚。両親の婚姻証明書には「ノリオ サカモト 29歳 日本、大阪」と記載されていることから父の出身地は大阪だと判明。ビール会社の同僚との遠足の写真が今でも残っている。戦中、父は消息不明となり、戦後は母と妹と雑貨店で生計を立てる。迫害を避けるため、父の姓は敢えて隠し、フィリピン名を名乗ってきた。本人は、上記両親の婚姻証明書および写真の他に、本人および妹の出生証明書(遅延登録)などを所持している。
	付き添い	帰国者の現住所			マニラ首都圏バレンズエラ市	
6  シゲトミ ファニタ	①シゲトミ(以下不明) ②平成22年7月20日 ③C	不明	F	65	1944年11月16日	父はルソン島北部のベンゲット州ラトリニダッドにてレタスやジャガイモの栽培に従事していたシゲトミ(以下不明)。「オメダ タダシ」という友人がいたが消息は不明。1943年9月5日にフィリピン人女性タグタグ アトンビとイゴロト族の方式により結婚。結婚式に参加した証人もいる。母によれば、父には日本に帰る1人がいるとの話。その妻との死別や離別については不明。本人は日本語の歌を一部歌うことができる。父の姓「シゲトミ」をずっと使って生きてきた。本人は、両親婚姻(部族婚)に関する宣誓供述書、本人の出生証明書(遅延登録)、本人の婚姻契約書、銀行通帳などを証拠として所持している。
	付き添い	帰国者の現住所			ベンゲット州バギオ市	
7  ノナカ ノナ	①ノナカ ユウイチ ②平成22年7月2日 ③C	不明	F	65	1945年1月13日	父は戦中、軍人としてネグロス島にやってきたノナカ ユウイチ。「キャプテン ノナカ」として知られていたという。1943年11月20日、フィリピン人女性バトリア エスカロナとカトリックの方式によって結婚。叔母が10歳のときに結婚式に参加したことを記憶している。父は戦中行方不明になり、本人は父の顔を見ることなく育った。日本人の子という事実は周囲に知られていたため、いじめに遭った経験を持つ。本人は、本人の出生証明書(遅延登録)および婚姻証明書、両親婚姻に関する宣誓供述書などを証拠として所持している。
	付き添い	帰国者の現住所			イロイロ州サンラフェル町	
8  広瀬 ヘロニモ	①広瀬 留吉 ②現時申立不可 ③B	京都	M	65	1944年9月30日	父は戦中、軍人としてセブ島リロアンにやってきた広瀬留吉。1944年9月30日にフィリピン人女性アヌンジャン カバフグとの間に本人が生まれた。本人が生まれる前に父は消息不明となった。弁護士を通しての厚生労働省調査の結果父の戸籍を発見、戸籍から父の出身地が京都と判明。フィリピンで作成された証拠類は特になし。
	付き添い	帰国者の現住所			セブ州リロアン町	
9  河田 サテ	①河田 浅一 ②申立不要 (戸籍記載ケース) ③B	広島	F	69	1941年4月6日	1世父は戦前、イロイロ市の「リアルパザー」という商店で働いていた河田浅一。売り子として働いていた母サビニアナと出会い、1938年10月18日に判事の下で市民婚。長女サテが1941年に生まれたが、しばらくして夫は「マニラに行く」と言い残して戻らず。暫くして日本から手紙と写真が送られてきた。写真は軍服姿の父。手紙には英語と現地語で「戦争が終わって私が生きていたら必ず戻る」と書かれていた。赤ん坊のサテに母乳の出ない妻に代わって粉ミルクをあげるやさしい夫だった。残された妻は幼子とともに夫の帰りを待ち続けたが、親戚の強い勧めでフィリピン人と再婚。調査で判明した戸籍には、父の出身地が広島県であり、父が中国方面に出兵し、浙江省で戦死したとの記載があった。本人は上記写真以外に、本人両親の婚姻証明書(遅延登録)、本人の出生証明書(遅延登録)および婚姻証明書などを証拠として所持している。
	付き添い	帰国者の現住所			ギマラス州ブエナビスタ町	

* カテゴリーB: 父の戸籍は見つかったが、自らの名が父の戸籍に載っていないケース
* カテゴリーC: 父の戸籍および自らの戸籍が見つからないケース

ファクシミリ返信用紙

日本財団 情報グループ 広報チーム 小澤 宛
FAX. 03-6229-5130

◇ 誠に恐縮ではございますが、取材いただける場合は必要事項をご記入の上、8月2日（月）までにご返信くださいますよう、お願い申し上げます。

フィリピン残留日本人 集団帰国記者会見

日 時：8月3日（火）18：00～19：00

会 場：日本財団ビル2階（港区赤坂1-2-2）

ご 氏 名		
貴 社 名		
ご 所 属		
ご 住 所		
T E L	会社電話	携帯電話
F A X		
E-m a i l		